

山川健次郎伝記

近代科学の先駆者せんくしゃ

母の手がら

「母上ただ今帰りました。」

「おや、健次郎。何かうれしいことでもあつたのですか。きょうは、あなたの声<sup>こゑ</sup>がたいそうはずんでいますよ。」

「はい母上。きょう学校へ行つたら試験しけんがあつたのです。私はきのうまで学校を休んでいましたので、心配だったのですけれど、結果は、大へんよくできましたというので、このとおりごほうびをいただいてまいりました。」

と、ほうびの本を母にさし出した。母は、にこにこしてそれを手にとり、